

令和3年度市民提案型市民協働事業

新しい時代の『参加型 防災セミナー』アレルギー防災編

実績報告書

狛江市／こまえ親子防災部

令和4年3月

【はじめに】

《こまえ親子防災部とは》

2018年10月に設立された狛江市民による活動団体です。災害弱者になりやすい子どもがいる家庭から防災意識を高めること、難しい用語の多い行政の取り組みを同じ親として、分かりやすい言葉で伝え狛江市民の自助力を上げることを目的として活動しています。

災害が増える中で、避難所においてアレルギー対応が十分になされていないことに危機感を抱き「アレルギー防災」も活動の一つとしています。

《アレルギー防災とは》

地震や風水害といった自然災害はいつ、どんな時に発生するか予想することができません。食物アレルギーだけでなく花粉症なども含め様々なアレルギー疾患を持つ方が増えている中、災害時の避難所におけるトラブルが多発しているのが現状です。災害時の避難先での誤食やアレルギー食材の混入防止、環境の変化による体調不良など、日常生活以上に様々な配慮が必要となります。

アレルギー対応の備蓄食品などの開発や行政の対応も進んでいる昨今ですが、何よりも大切なのは周りの人たちの理解だと考えます。アレルギーのある本人やご家族の方々だけでなく、周囲の方々、行政、避難所運営協議会、PTA、地域の方々など、1人でも多くの方にアレルギーについて知っていただき、トラブルを防ぐとともに互いに助け合い命を守れるようにアレルギー対策の観点からの防災を「アレルギー防災」といいます。

【事業概要】

《事業の目的》

災害が増える中で避難所において、アレルギー対応がなされていないことにより生じる様々な危険から子ども達を守ることを目的とし、アレルギーがあることが一目で分かる“狛江市オリジナルアレルギーマーク”のデザインを作成。

《事業内容》

- * 狛江市内の小学生を対象にアレルギーマークのデザインコンテストを実施
- * コンテスト最優秀作品を缶バッジへ加工し、希望する子どもへ無償配布
- * 親子を対象とした「アレルギー防災」講演会を開催

《主催》

狛江市

こまえ親子防災部

《事業形態》

狛江市とこまえ親子防災部との市民協働事業

(令和3年度 市民提案型市民協働事業)

《事業実施経過》

4月13日	協定の締結
4月26日	指導室長・安心安全課・防災部 打ち合わせ
5月6日	講師とのオンラインミーティング
6月11日	PTA 連合副会長会 説明
6月14日	講師オンラインミーティング 後 打ち合わせ
6月15日	チラシ入稿 (東京カラー印刷)
6月16日	ポスター入稿 (ラクスル)
6月17日	校長会 説明
6月22日	各小学校へチラシ・ポスター・回収ボックスを届ける
7月9日	セミナー延期決定
7月20日	各小学校へ応募作品の回収 打ち合わせ (選考候補を選出)
7月21日	松原市長 最優秀作品選出
7月21日	セミナー延期開催日 11月7日に決定
8月21日	エコルマ エレベーター前にて来訪者対応
9月15日	市長 缶バッジデザイン修正案 最終確認
9月30日	缶バッジ 発注・データ入稿
10月5日～	セミナー告知チラシ 各小学校へ配布
10月6日	缶バッジ試作品 到着⇒修正検討
10月11日	缶バッジデザイン 修正データ入稿
10月14日	安心安全課・防災部打ち合わせ

10月16日	受賞作品選考終了
10月17日～	受賞者への電話連絡
10月26日	防災マップチラシ発注・データ入稿
10月28日	缶バッジ 到着
11月3日	シナリオ作成
11月4日	事前打ち合わせ
11月6日	前日準備 13時～17時 終了後打ち合わせ
11月7日	表彰式&セミナー 本番当日
11月8日	安心安全課・協賛団体 お礼のご挨拶
11月18日	缶バッジ周知チラシ 発注・データ入稿
11月28日	狛江市総合防災訓練にて 缶バッジ配布開始
12月～	各小学校へ缶バッジ配布 市内関連施設へ周知チラシ配布

【事業詳細】

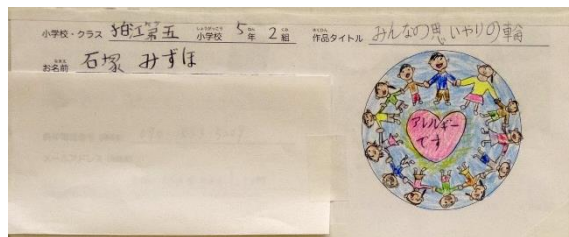
《アレルギー缶バッジ》

- 【実施名称】 こまえアレルギー缶バッジデザインコンテスト
- 【実施内容】 こまえオリジナルアレルギーマークのデザイン募集
- 【実施期間】 令和3年6月21日～7月20日
- 【募集対象】 狛江市内小学生
- 【募集方法】 ポスター掲示・チラシ配布
- 【参加人数】 548名

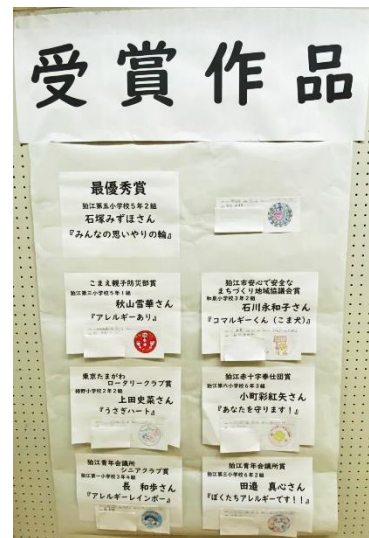
狛江市内の小学生を対象に「こまえアレルギー缶バッジデザインコンテスト」を実施。全児童に応募用紙を兼用したチラシを配布し各小学校にて回収。実施期間は上記の通り。(チラシの配布・応募用紙の回収はこまえ親子防災部にて行う。)



全応募作品の中から、こまえ親子防災部にて小学校ごとの第一次選考を行う。安心安全課と共同で第二次選考後市長に『最優秀賞』をご選出いただく。



最優秀賞に選ばれた第五小学校以外の作品から小学校別に担当団体を割り振り、各協賛団体の受賞作品を選出。(第三小学校は応募作品が多かったため、2作品が受賞。)



最優秀賞に選ばれた第五小学校 石塚みずほさんの作品『みんなの思いやりの輪』は市内在住のデザイナーに依頼し修正およびデジタル処理を行ったうえで、缶バッジを作成。缶バッジの初回注文数は1000個。(配布方法などについては後述)



11月7日(日)に中央公民館ホールにて『こまえアレルギー缶バッジデザインコンテスト』表彰式を行う。受賞者には、表彰状及び各協賛団体からの記念品が授与された。(一部スタッフが代理)



同会場内において、全応募作品548点を小学校ごとの展示を行う。壁一面の応募作品は圧巻で、参加した子どもたちは、お友達の作品を熱心に見たり、記念に写真を撮ったりしていた。大人たちには小学生がアレルギーについて一生懸命考えて、作品を応募してくれたことが伝わり好評であった。

表彰式には第三小学校 学校長、第五小学校 学校長も駆けつけてくださった。





《こまえアレルギー缶バッジ周知方法》

【配布箇所】防災センター2階 安心安全課窓口（＊1）

各避難所（災害時）受付

【配布対象】アレルギー疾患のある子ども

（高齢者などを含むアレルギー缶バッジを必要とする方）

【周知方法】チラシ作成（表面カラー裏面モノクロ）

狛江市広報紙・HP、安心安全課通信などに掲載

狛江市内小学校・幼稚園へチラシのお届け

保育園へは園長会を通してご案内

11月28日狛江市総合防災訓練 各避難所にて配布（＊2）

周知用チラシ

はじまるよ!
かん
こまえアレルギー缶バッジ

アレルギーのある
お子さんを守るために
周りの大人の協力が
大切です!

どんな人が使うの?
食物アレルギーなどのアレルギー疾患がある人のための缶バッジです。
自宅で「アレルギーがあること」を周りの人に伝えるのが難しい、乳幼児や
小学生を対象にしています。希望される方に無償で提供しています。
＊アレルギーのある方が、必ず使わなければならないものではありません。

お子さんへ
なるべく沢山の大人に使ってもらいたい
ので、もらえるのはひとり1つです。
このバッジを使うかどうかは、お家の
か「気を付けること」などを確認して
人と相談して自分で決めてください。

大人の方へ
この缶バッジをつけているお子さんはア
レルギー疾患があります。必ず保護者の
方や本人に「何のアレルギーがあるの
か」「気を付けること」などを確認して
ください。

缶バッジを受け取れる場所
＊狛江市役所 防災センター2階 安心安全課窓口
＊各避難所（災害時）受付

お問い合わせはコチラ-komae.cityshikoku.jp@gmail.com
もしくは狛江市役所安心安全課 03-3430-1111（代表）まで

＊全ての保護者の方へ＊アレルギーについて＊

アレルギーって?
私たちの体には、細菌・ウイルス・寄生虫などの感染性微生物や異物
などから身を守るための「免疫」という仕組みがそなわっています。
この免疫の働きが、現代文明による環境やライフスタイルの変化によ
って異常を起こし、くしゃみ、発疹、呼吸困難などの症状を起こしてしま
う状態が「アレルギー」です。
アレルギー疾患には、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギ
ー性鼻炎（花粉症を含む）、アレルギー性結膜炎、気管支喘息（ぜんそ
く）、薬剤・昆虫アレルギーなど一症状・経過とも多様な疾患が含まれ
ます。
（国立成育医療センターHPより「アレルギーについて」国立成育医療
研究センター（necchi.go.jp）

食物アレルギーは発見からは判断できません。しかし原因となる食品
に触った後、近づいただけでも症状が悪化し、命の危険にさらされる
人もいます。

なぜ缶バッジが必要なの?
混乱が生じやすい避難所で、悪化による事故が多発しています。災害
時だけでなく日常生活の中でも、子どもの近くには保護者がいないタイ
ムで、アレルギーがあることを知らない人から「善意」で食べ物をま
らう機会があるかもしれません。
そんな時、自分の言葉で「アレルギーがあります」と伝えられない子
どもたちを守るため、この缶バッジは誕生しました。周りの大人に「ア
レルギーがある」ことに気付いてもらい、事故を防ぐのが目的です。

どうやって使うの?
通園・通学に使っている靴や、災害時のお子さんの
防災リュックなどに付けてください。
5mmと大きな缶バッジです。安全ビンの取り扱
いにはご注意ください。

アレルギー疾患を知らせることについて
内閣府が平成25年8月に「避難所における良好な生活環境の確保に向けた取り組み資料」を
発表しました。その中で、避難所において食物アレルギーの避難者に対し、原材料の表示やア
レルギー対応食品の備蓄などの配慮をすること、避難者自身によるアレルギーを起こす原因食品の
情報提供を行うことが明記されています。
（内閣府府民情報ページ）
http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinonjo/h25/kankyokukakuho.html

* 1 / 防災センター 2階安心安全課に常設



* 2 / 11月28日総合防災訓練にて配布



狛江市内6か所の避難所に、こまえ親子防災部8名が参加し避難所受付の一角にてアレルギー缶バッジを配布。実際に配布したのは合計16個だったが、多くの方に興味を持っていただき、良い周知の機会になった。

《防災セミナー》

- 【実施名称】 こまえアレルギー防災セミナー
- 【実施内容】 避難所におけるアレルギー防災
- 【実施日】 令和3年11月7日
- 【会場】 狛江市中央公民館ホール
- 【講師】 辻由起子先生 大森真友子先生
- 【参加人数】 40名
- 【申込方法】 オンライン／メール

8月開催予定であったセミナーを新型コロナウイルス感染拡大防止のため、11月に延期。10月初めに再度セミナー案内チラシを小学校家庭数で配布。

メールおよびQRコードによるオンラインでの申し込みとしたため、参加者の管理・連絡はスムーズに行えた。

狛江市市民協働事業
主催/狛江市
こまえ親子防災部

体験型 延期開催

みんなで考えよう

こまえアレルギー防災セミナー

& こまえアレルギー缶バッジデザインコンテスト表彰式

日時 11月7日(日)14:00~16:30 会場 中央公民館地下ホール 参加費 無料

対象 狛江市内在住の小学生親子
対象 親子
定員 40名
申込 10月20日(水)18:00迄(先着順) ※申込受付終了後、申し込みの多い場合は抽選となります。

講師 大森 真友子先生
一般社団法人LFA Japan 代表
アレルギー専門「アレルギー」に関する講演、執筆、執筆
辻 由起子先生
アレルギー対応食品アドバイザー、アレルギー対応食品開発
担当講師、執筆、執筆

【こまえアレルギー防災セミナー】
【避難所におけるアレルギー防災】

※期間中で既にあった缶バッジデザインコンテスト表彰式
※当日で終了の場、アレルギー対応食品の試食
※「アレルギー対応食品」の缶バッジデザインコンテスト表彰式
※アレルギー対応食品の試食

セミナー参加 申し込み方法

右側のQRコードでのお申込み
大森真友子先生へ「アレルギーと向き合う」悩み・相談をこちらへどうぞ

メールでのお申込み ▶ komaen_ayukobousai@gmail.com

(備考) こまえアレルギー防災セミナー参加申込、と書いてメールを送ってください。
お問い合わせ「申込フォーム」もご活用ください。ご確認ください。

大森 真友子先生

アレルギーがある子育て世代だけでは、解決できない問題があります。いざという時、頼りになるのは身近な知識のある大人。「防災」×「アレルギー」と考えずには、皆に届かせるアレルギーの知識として、まずは知るここから始めましょう。
(LFA Japan 代表)
TBS「食のチカラ」アレルギー対応食品の解説
アレルギー専門「アレルギー」に関する講演、執筆、執筆

辻 由起子先生

LFAの皆さんと「食物アレルギー対応食品」の知識を共有したい。「食」についてお話を聞きたい。「食」についてお話を聞きたい。「食」についてお話を聞きたい。

(主催/協賛) 狛江市市民協働事業 主催/狛江市市民協働事業 主催/狛江市市民協働事業 主催/狛江市市民協働事業

一般参加の親子を含め約40名が参加。セミナー前半は、ほくせつ親子防災部代表辻由起子先生から『防災×アレルギー 市民の思いを市政につなげる』と題し、ご自身が母親目線の防災の重要性を感じたことなどから、ほくせつ親子防災部が発足された経緯や、大森真由子先生が代表を務めるLFA食物アレルギーと共に生きる会と協力し実施された食物アレルギー対応炊き出し訓練の経験などを踏まえて作成した「防災炊き出しハンドブック」の紹介など、アレルギー防災についての取組の実績などについてお話しいただいた。

後半は、一般社団法人LFAJapan代表理事 大森真友子先生の『避難所におけるアレルギー防災』についての講演。平成30年6月の大阪北部地震の際、アレルギー対応食品が不足し食物アレルギーの子どもがいる家庭として困ったこと、仲間と助け合い乗り越えた経験を元にどのような備えが必要となるのか。また避難所で炊き出しされる食事の原材料表記がなかったために、アレルギーのある人が食べられなかったことをから、避難所などで炊き出しする際の原材料表記の重要性、何をどう表示すれば良いのかという具体的な例を挙げ、誰にでも取り入れやすく伝わりやすいアレルギー防災の取り組みについて講演いただいた。

最後にアレルギー症状への対応の手順について、緊急性が高いアレルギー症状へのエピペンでの処置や、その他にも周囲ができる対応について「防災炊き出しハンドブック」記載の内容を基に説明していただいた。



会場内には大森先生からご提供いただいたアレルギー対応の備蓄食品の展示



こまえ親子防災部からのローリングストックの提案、狛江市内の防災食品取扱店MAP、狛江市安心安全課から狛江市の備蓄品と成分表示の展示を行った。



特に大森先生からの提供品はアレルギー対応食品のため多くの参加者が興味深く見ていた。



【セミナー参加者アンケートより（一部抜粋）】

- ・避難所運営協議会として参加。避難所を運営する側として配慮することが多く、実際にできるのだろうかと不安になることが多い。炊き出しの際に表示することが重要など学ぶことが多く参考になった。
- ・子どもにアレルギーがあり、災害時の不安はあったものの実際に何をして良いかが分かっていなかった。講演の内容を元に自分で準備してみようと思った。
- ・避難所でのアレルギーについて考えたことがなかったので、ハッとしました。
- ・アレルギーのことを丁寧に教えてもらったので、友達に卵・乳・小麦のアレルギーの子がいるので、気をつけようと思いました。
- ・アレルギーのある方との関わり方について、どんな風に気を遣うと良いのか具体的に分かってとても良かった。

- ・以前に参加した市の防災訓練での炊き出しが、アレルギー物質の入っているもので驚いた。災害時、親子が離れてしまったときに万が一のことがあったらと不安に感じました。避難所のボランティアの方にも周知していただきたい。
- ・子どもにアレルギーがあります。アレルギーの子どもは初めて食べる食品に慎重です。備蓄する食品を試して食べておくという点はとても参考になりました。自宅では食べられる食品を準備していましたが、持出袋には入れておらず、リュックに入れる物なども参考にさせていただきます。セミナーの内容は大変勉強になりました。
- ・少し長かったけど勉強になりました。紹介してもらったこと、実践してみたいです。自分もアレルギー気をつけようと思いました。缶バッジつけます。

【参加者記念撮影】



一部写真提供 K-Press